

第82回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年3月14日(月) 14時～17時

兼題「草餅」「草団子」

- 川井素山 ○残照や足で舵とる蜷舟
江戸川の土手の蓬か草の餅
露味噌やペンを走らす山の宿
墨堤の万蕾孕む初音かな
- 保井寶正 ○春疾風乙女の裾に噛みつきぬ
春めくや紅白帽の子等の列
春雷のオブジェの枝に季を告げり
庭掃除終えて将棋に草団子
- 青木英林 ○吊るし雛首をすくめて鬼ごっこ
草餅の色鮮やかに訝れる
目刺焼く匂ひに釣られ縄暖簾
今年又燕飛び交う溪谷に
- 後藤克彦 ○雪吊りの役目終へたる縄を解
水温み餌奪い合う鯉うるさ煩
白山の日毎に少な笠の雪
名物に旨い物あり草の餅
- 佐久間喬 ○よもぎ餅色をほめつつ二つ求む
野仏にラップ巻かれし草だんご
うるうると今日突然の花粉症
七十路やターン重たき春スキー
- 丸山酔宵子 ○便りなき友を偲ぶや寒見舞
ヨモギもち峠の水車回りおり
藁抜いて目刺を喰らふ頭から
老木の瘤に芽を吹く桜かな
- 菊地崇之 ○鳥かえるときも覚えず巢に眠る
縁台や萌え初めにし草だんご
花の宴ころときめんあのかたと
春雨におしどりなれば傘にある

牧野里山 ○ラッセルの樹海の中に芽吹きあり
草団子帝釈天の人の波
気を静め墨を摺る手に春の雷
孫受験知らせはまだか気もそぞろ

吉田啓悟 ○店先の箒目ふみて草団子
かきくもる空のかげさす梅見かな
紅梅や思はぬ時のながれたり
娘のみ持ちたる父の蓬餅

佐久間たか子 ○仏間にて思い出集う草のもち
草だんごまんまるの笑み昼下がり
川縁に黄を映したる菜花かな
げんげ田は柘目の萌葱米どころ

山本草風 ○縁側に草餅二つ人を待つ
地吹雪や白き浄土の石仏
笑み湛え畑打つ人の行儀良さ
陽が昇る障子に踊る春の鳥

金森純女 ○春霞吸ひ込み胃の腑もたれけり
春の闇改札口で父笑ふ
草餅や母の手弱くなりけり
むつごろういつか空まで跳ねあがれ

佐伯兵庫 ○草餅で一息いれる庭弄り
目を覚ますカタクリ満つる花の森
妻の服明るさ増して水温む
花粉症甘き備えのこりぬ妻

次回「萩句会」

日時 2016年4月11日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題『燕』一句 当季雑詠三句 計四句